

南区地域公共交通に関する意見交換会（会議概要）

1. 開催日時

平成28年10月28日（金）午前10時00分～午前11時15分

2. 会 場

新潟市南区役所1階101会議室

3. 出席者（敬称略）

【委 員】

北陸信越運輸局新潟運輸支局運輸企画専門官 伊藤 健一
新潟南警察署交通課長 渡部 春喜
南区自治協議会会長 棚村 真須美
南区自治協議会副会長 田村 義三郎
新潟交通株式会社乗合バス部企画調整課長 代理出席者 近藤 守
新潟交通観光バス株式会社営業部乗合バス課 坂井 康人
新潟県下越南部ハイヤー協会会長 和泉 徹
南区役所建設課長 木村 正二，南区役所味方出張所長 牛腸 要一
南区役所月潟出張所長 宮本 康明，南区役所地域課長 川瀬 正勝

【事務局】

南区役所地域課課長補佐 拝野 博一
南区役所地域課企画・地域振興担当係長 伊藤 早苗
南区役所地域課企画・地域振興担当主査 蝦名 淳広

【報道関係】

0名

【傍聴者】

1名

4. 意見交換事項

●「南区の公共交通の概要」の説明（事務局）

- ・参考資料1「南区の公共交通の概要」参考資料2「南区のバス路線図」に基づき説明

●「南区の公共交通の概要」 意見・質疑応答

○棚村委員

- ・高齢者の方の南区内での事故の状況とか事故率について、情報があれば教えてほしい。シニア半わりが9月からスタートしたが、申込状況について教えてほしい。

○渡部委員

- ・高齢者が加害者となる事故や、高齢者のうっかり事故が増えている。2回以上の事故を起こした高齢者に対し、特に強く免許返納をアドバイスしている。免許返納後の移動手段、公共交通について相談があれば、区役所地域課につなぎたい。中には家族から「怖いから運転を控えてほしい」と言われている高齢者もいるが、車がないと病院にも行けない、買い物にも行けないという事情もあり「市の中心部は無理でも南区内なら交通量も少ないので、まだ運転できる」と考えている方

もいるし、仕事の関係で運転せざるを得ない方もいる。

○地域課長

- ・シニア半わりについては、10月21日現在、市全体で23,525人からご参加者いただいた。うち、新規でりゅーとカードを取得した方は7,663人（全体の32%）。参加者の性別は、男性6,531人（27.8%）、女性11,994人（72.2%）参加者の年代は、65～69歳が7,979人（33.9%）、70～79歳が10,831人（46.0%）。80歳以上が4,715人（20.0%）

市全体の参加者23,525人中、南区民は300人（1.3%）で、西蒲区に次いで少ない。西蒲区は75人（0.3%）。一番多いのは中央区で8,495人（36.7%）。南区の65歳以上の全人口は12,474人なので、うち300人ということは、2.4%の方がシニア半わり登録していることになる。

●南区・区バス運行計画（変更）案の説明（事務局）

- ・資料1「第2回新潟市地域公共交通会議協議事項の概要」資料2「南区区バス運行計画（変更）案」に基づき説明

●南区・区バス運行計画（変更）案 意見・質疑応答

○棚村委員

- ・警察の免許返納、事故防止の話と、区役所の公共交通の話を、両者で連携して、住民の方にもう少し詳しく、丁寧に説明すれば、利用が伸びるのではないか。
- ・運行表・時刻表のように、数字がたくさん並ぶ印刷物をお年寄りの方が見ると、自分が何時に乗ってどこへ着いて、そこから何時に乗り換えてと、調べるのがとてもたいへん。それが面倒でバスを諦めている可能性もある。その点のフォローを、地域の人や民生委員、家族でも、誰でもいいのでしてあげられるといいと思う。そういう観点から、丁寧な説明や利用の勧め方について、区役所も細かな配慮をしてほしい。
- ・先日「ぐるりん号」に乗ったが、施設近くで小刻みに停車するので、乗り慣れている人は、とても便利に利用しているようで、「ぐるりん号」はとてもいいと思う。まだ始まったばかりなので、ぜひ浸透させて、誰でも気軽に利用するよう、定着する方向で継続してほしい。

○地域課長

- ・地域生活センターや集会所などに職員が出向き説明するとか、あとは、個人単位で気軽に相談できる窓口を設けるとか、あるいは、コミュニティ協議会で窓口になっていただき、こちらから説明に行くとか、どういうやり方ができるのか検討していきたい。

○田村委員

- ・地域によっては、小さいワンボックス車両を使ったり、加茂市では多数の車両を使って加茂市民バスを運行したりいろいろなやり方がある。「ぐるりん号」も小型バスでなく、ワンボックス車両を使った方が、より小回りが利いて、南区の特性に合っているのではないか。
- ・路線バス、区バス、住民バス、乗合タクシーと、様々なやり方があるが、「区バスは区バス」と単体で捉えるのではなく、すべて一体のものとして、総合的に南

区の公共交通を考えていくべきだと思う。

- ・学習館やカルチャーセンターで結節させて、ターミナルという形で結びつけて、一体のものとして捉えた方がいい。バスセンター的なものを実現できればいいと思う。

○地域課長

- ・ターミナルについては、青年会議所や商工会から提言書をいただいたので、そういったものも含め、まちづくり全体を検討する組織の立ち上げを検討している。ただし、直ぐにターミナル整備というのは実現が難しいので、当面は、白根中心部で、バス待合・乗換ポイントとなっているバス停同士を「ぐるりん号」で結び、待合機能、乗換機能を白根のまちなかに振り分ける、いわゆる「まちなかターミナル」的な運用を考えているが、将来的には、様々な方法を視野に、検討していきたい。

○事務局

- ・「ぐるりん号」の立ち寄る目的地が、病院や商業施設ということで、ある程度の道幅がある区間を運行しており、現時点では小型バスで十分対応できる。また過去にワンボックス車両を検討したことがあるが、ワンボックス車両を使用しても、人件費の割合が高いので経費削減にはつながりにくい。現時点では、定員の大きい小型バス車両の方を選択している。

○棚村委員

- ・中央区などと比べて、南区のバス利用者は本当に少ないが、新潟交通観光バスの運転手の意識の高さはありがたいと思う。「ぐるりん号」も毎日一生懸命、いろいろな場所を回ってもらって、高齢者の足となっているのは本当にありがたい。先日、私が乗車した「ぐるりん号」の運転士も親しみやすく、とても気持ちのいい方で、地元住民のために運転していることに誇りを持っているというか、とてもありがたいことだと感じている。
- ・乗合タクシーの利用者減少はとても気がかりである。利用が減少していたとしても、乗合タクシーは区民の選択肢の一つとして重要な足になっていると考えるが、見解をお聞きしたい。ぜひこれも続けていっていただきたい取り組みだと思っている。

○和泉委員

- ・利用者については、今までご利用いただいていた方がご病気になったり亡くなられたりということもあり減少している。乗合タクシーは区バス以上に高齢の方が多く、予約電話が手間だという声もあるが、区役所職員が地域の茶の間に外向き、ご高齢の方を前に、実際に携帯電話から電話をかけて、タクシー会社で実際に電話を受けて「こんなに簡単に予約できる」という、一連の電話予約の流れを実演して見せるなど、連携してPR強化に努めているが、なかなか新規利用者が増えてこない。
- ・私自身もタクシー乗務することがあるが、タクシーでは通院がとても高額になってしまうという方には、乗合タクシーをご案内している。2人以上乗車で300円、障がい者手帳をお持ちの方は半額150円でどこまでも行けるとPRをしているが、やはり、予約の手間が一番ネックとなっているようだ。

- ・乗合タクシーは、利用がなければ走らない、走らなければ運行経費がかからないので、便数を増やして1時間ごとの分かりやすい運行時間にするとかで、もう少し利用が増えればと思っている。

○地域課長

- ・和泉委員がおっしゃったとおり、予約電話の手間が障壁となっている。そこを乗り越えていただくと、通常のタクシーよりも格安だし、使い勝手も悪くはないと考えている。その辺のPRを、今度も地道に続けていきたい。

○和泉委員

- ・難しい話かとは思いますが、区バスの出入口ステップをもう少し低くしてほしい。普通のタクシーの利用者で、過去に区バスに乗ろうとステップを昇るとき失敗して転んで、それ以来、料金が高くてもタクシーを利用しているという人がいる。今のバスも結構古いと思うが、もし次に車両を入れ替えるとき、もう少し乗りやすいバスにしていただけたらと思う。

○事務局

- ・南区の区バス3台のうち2台は、平成16年から使用し老朽化している。圧縮天然ガスを燃料に使っているが燃料タンクが法令の規定で使用期限が迫るなど、車両入替が課題となっている。仮に車両入替があれば、高齢者に優しいバスの方向で考えたい。また、3台中1台のみ、ノンステップのディーゼル車両で、車いす乗降も可能である。

○田村委員

- ・三条市・燕市方面への路線バスについて、新飯田発で同方面に行く路線バスをもう少し伸ばしてもらって、白根発三条行とは出来ないものか。また、加茂市民バスや区バスと連携しながら、同方面へのアクセスを考えるべきだと思う。

○地域課長

- ・三条市燕市方面へのアクセスについてはアンケート調査を行った。その中で「同方面への新しい公共交通が必要か」との問いに対し、「必要だ」との回答は約3割。また「必要だ」との回答者に「どれくらいの頻度で利用するか」とお聞きしたところ、最も多かったのは「週1回程度」で、運行したとしても利用者がとても少ない可能性がある。アンケート結果を受けて、今後も検討を継続していきたい。隣接する市町村との連携も必要になってくるので情報収集していきたい。

○事務局

- ・加茂市民バスは1日に10往復、新飯田地区と加茂市の間で運行されている。3月末に南区公共交通ガイドを作り、新聞折り込みで区内の各世帯に配布させていただいた。従来、区バス、住民バスだけの情報を掲載していたが、今年度向けの紙面では、南区に係る路線バス、加茂市民バスも含めて掲載している。しかし情報を網羅しようとする、どうしても一覧表となり分量が多くなってしまふので、ご高齢の方などに対し、個別で「何と何を乗り継ぐと、どういった利用の方法ができます」のような、情報提供の方法を検討したい。

○棚村委員

- ・そういった方法もいいと思うが、バス利用のアドバイザーみたいな人がいるといいと思う。新潟交通の方で、バス乗継方法、例えば、南区から東区の病院にお見舞いに行きたいと電話で問い合わせたときにすぐ教えてくれる、そういう人がいるといい。単純に新潟駅に行くだけだったら行けると思うが、どこで乗り換えてどう行ったら一番安く早く行けるのか、何時くらいに着くのか、あれだけの分量の時刻表は私自身でも読み解きにくいと感じるので、お年寄りの方は教えてもらえると、特にありがたいのではと思う。

○近藤委員

- ・新潟交通のバスセンター案内所での業務は、目的地への行き方や運行情報など、直接または電話でのお客様からの問い合わせが非常に多い。バス利用するためにお問い合わせいただいているのでたいへんありがたいのだが、現状、ひじょうに多い件数に対応している。乗合タクシー等も併せて、値段の高い安いも含めた包括的、複合的な情報案内となってくると、現体制では十分に案内できない部分があると思うので、検討しなければならない部分があると思う。

○事務局

- ・11月2日に開催予定の新潟市地域公共交通会議において、本日まで説明した計画（案）を諮り、本日いただいたご意見を併せてご報告させていただく。